

広島県の共同リポジトリ

広島経済大学図書館
辻水衣

本日本話すること

1. はじめに
2. HARPについて
3. 共同リポジトリとしての
4. HARP立ち上げまで
5. CSI事業
6. HARPから得たもの
7. HARPのこれから

1. はじめに

自己紹介
機関リポジトリとは

自己紹介

- 広島経済大学
 - 1967(昭和42)年開学
 - 学生数 約3,900人
 - 1学部 5学科 大学院
- 図書館
 - 蔵書冊数 約42万冊
 - 職員数 9名(うち契約職員2名)
 - 図書予算 約59,000千円
 - 総面積 8,886㎡
 - 閲覧座席数 約500席

(いまさらですが)

機関リポジトリとは

「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」(C.リンチ)

- 著者からみると…
 - オープンアクセス(無料公開)による読者獲得
 - 研究成果の可視性(Visibility)向上&流通拡大
- 機関からみると
 - 機関の研究活動成果の発信と保存
 - 研究機関としての知名度向上

2. HARPについて

概要
画面例
登録コンテンツ

概要



- 広島県大学共同リポジトリ
- (HARP : Hiroshima Associated Repository Portal)
- 公開・・・2008年4月
- 目的・・・地域の活性化・社会貢献
- <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

概要



- 運営主体・・・広島県大学図書館協議会
- 参加資格・・・広島県大学図書館協議会加盟館
- 参加機関数：12
- 尾道大学・広島国際大学・広島国際学院大学・広島女学院大学・広島工業大学・広島市立大学・広島文化学園大学・広島文教女子大学・広島経済大学・日本赤十字広島看護大学・比治山大学・県立広島大学
- 会費・・・1機関 30,000円/年

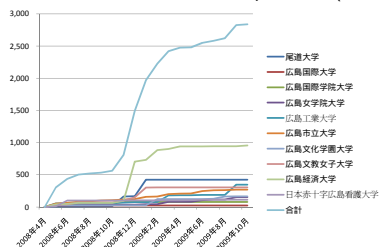
画面例



登録コンテンツ



登録コンテンツ総数 3,209件 (2009年11月3日)

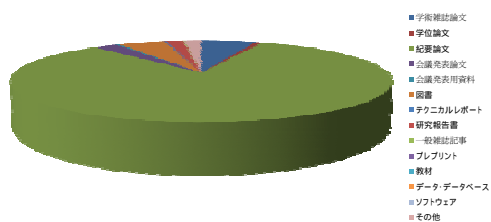


(IRDBコンテンツ分析システム<http://irdb.nii.ac.jp/>より算出 (参照: 2009/11/03))

登録コンテンツ



資源タイプ別登録コンテンツ 80%以上が紀要論文

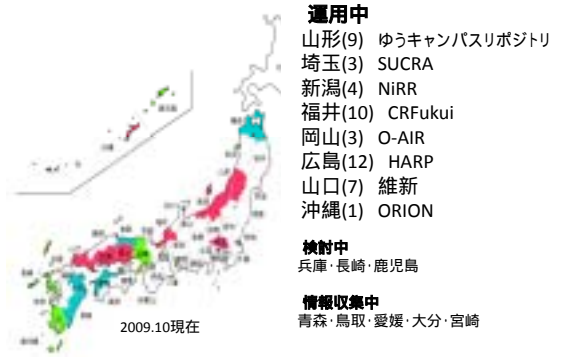


(IRDBコンテンツ分析システム<http://irdb.nii.ac.jp/>より算出 (参照: 2009/11/04))

3. 共同リポジトリとしての HARP

国内の地域共同リポジトリ
なぜ共同リポジトリなのか？
共同リポジトリであるために
共同だからこそその“負担”
共同だからこそその工夫

国内の地域共同リポジトリ HARP



なぜ共同リポジトリなのか？ HARP

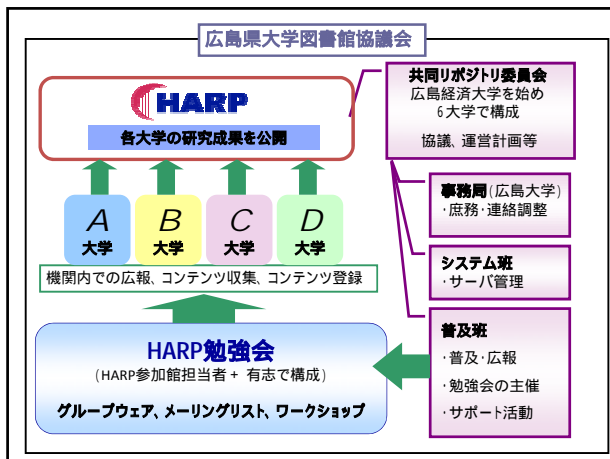
- 構築、維持にかかる費用が抑えられる
- 技術・ノウハウを共有できる
- 業務負担が少ない
- (連帯感、盛り上がり、勢いを持てる)



- 中小規模機関IR導入の障壁を除去
- オープンアクセスの裾野拡大

共同リポジトリであるために HARP

- 広島県大学図書館協議会の事業とした
- 共同リポジトリ委員会を設置
- 協議会からの補助金と、HARP参加館の会費で運営(H20～21年度はCSIの委託金も)



共同だからこそその“負担” HARP

• 収入

会費(11大学)	330,000円
協議会よりの補助金	30,000円
合計	360,000円

• 支出

サーバ保守費(業者委託)	252,000円
更新積立金	108,000円
合計	360,000円

共同だからこそその工夫

“共同だけど、一緒じゃない”

共同だからこそその工夫

- スタイルシートで画面デザインを個別化
- 大学ごとにURLが異なる
 本学 → <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/13>
- PDFカバーページに大学名を明記

4. HARP立ち上げまで

公開までの経緯
 担当者の心境(当初)
 担当者の心境(その後)
 実現の要因

公開までの経緯

	内容	担当ほか
2006.10	・実験プロジェクト立ち上げ、 広島大学のCSI委託事業(平和学リポジトリから広島県内共同構築の着想) ・第1回勉強会	8大学11名
2006.12	実験サーバ立ち上げ (DSpace, XoonNips)	広島工業大
2007.1	第2回勉強会	9大学13名
2007.3	本稼動用サーバ導入	広島大
2007.6	第3回勉強会	9大学15名
2007.7	19年度広島県大学図書館協議会総会で事業化承認 委員会設立	
2007.7	NII学術ポータル担当者研修受講	広島工業大・広島国際大・ 広島女学院大

公開までの経緯

	内容	担当ほか
2007.7	第1回県大図協共同リポジトリ委員会 19年度活動計画策定	広島経済大(委員長館) 広島市立大・広島工業大 広島国際大・広島女学院大 広島大
2007.9	県大図協第1回研修会(於:広島大学)	広島大・広島工業大発表 18大学47名
2007.9	私立大学図書館協会西地区研究会で発表	広島工業大
2007.10	県大図協加盟館に意向調査	13大学が参加の意向
2007.11	DRF地域ワークショップ岡山で発表	広島市立大
2007.12	第4回勉強会	13大学17名
2008.1	英国の共同リポジトリ調査 White Rose, SHERPA-LEAP	広島大

公開までの経緯

	内容	担当ほか
2008.1	DRF国際会議2008 ポスター参加	広島大・広島工大 広島経済大
2008.2	第2回県大図協共同リポジトリ委員会 20年度活動計画策定	広島経済大学ほか 5大学
2008.3	20年度の参加募集	11大学が申請
2008.3	共同リポジトリ情報交換会(於:広島大学) (早稲田大・岡山大・長崎大・長崎国際大ほかHARP)	
2008.4	第5回勉強会	15大学25名
2008.4	正式公開	

各大学担当者の心境(勉強会当初)



- 予算がないし、人手もないし、無理かな
- とりあえず話だけでも
- 参加して大丈夫？
- 共同でリポジトリってできるの？
- 紀要の登録ができればいいや



右も左もわからず、不安でした

各大学担当者の心境(その後)



- 一つ一つ知識やノウハウを学び、少しずつわかってきて、だんだん安心した
- 参加館同士の交流によって、何とかなるだろうという気持ちになった
- 予想以上に容易く、速く実現できたことは大きな驚きだった
- 共同の力はすごいと実感している
- 勉強会は色々助言をもらえる場であり、その存在がとてもありがたい
- 勉強会・ML・Googleグループの組み合わせで、離れていても一緒に仕事をしているという実感が得られる貴重な場となっている



勉強会・共同リポジトリに参加してよかった！

実現の要因



- 県大図協の正式事業となったこと
- 広島大学のサポート
- 役割の分担ができたこと
→普及(広島経済大)・システム(広島工業大)
広報(広島市立大・広島女学院大)ほか
- CSI委託事業費による準備(サーバ)
- 参加大学の前向きな姿勢
- MLでのコミュニケーション

5. CSI事業



- 代表機関は広島経済大学
- PC4台、スキャナの購入
- **アルバイトの雇用(White Rose型)**
 - PDF作成・メタデータ作成 → 各大学で一括登録
 - 文献リスト作成
 - コンテンツの著作権確認
- 業務委託(スキャニング)
- 広報グッズ(チラシ・クリアファイル)

5. CSI事業



- **White Rose Research Online**
 - リーズ・シェフィールド・ヨーク大学のコンソーシアムで成立
 - 三大学で一名雇用し、全ての業務を行っている
 - <http://eprints.whiterose.ac.uk/>

5. CSI事業



6. HARPから得たもの



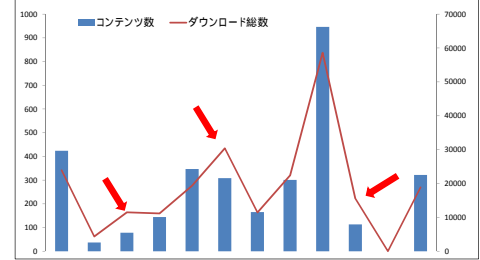
コンテンツの可視化
教員の感想
各大学担当者の心境
県大図協への影響
発表機会の増大

コンテンツの可視化



2008年5月1日～2009年10月1日

ダウンロード総数 58,248件 コンテンツ総数 2,052件



教員の感想



- ダウンロード数の多さに驚いた
- 思わぬ人から「読んだよ」と声をかけてもらった
- 研究の励みになる
- 非常に狭い研究領域なので、読まれているのが不思議
- 自信がない論文もある。ちょっと複雑

各大学担当者の心境



- コンテンツ数は少なくとも、登録しない限り利用者は読めないで、**小規模大学にもやりがいがある**と感じている
- **教員とのコミュニケーション**がより深くなった
- 積極的に「**どうやったらコンテンツが収集できるか**」ということについて考え、取り組むようになった
- 紀要以外のコンテンツでも登録したいものが出てきた
- 自館のOPACにリンクを貼ったりして、**登録されたものが利用されるように工夫**をするようにしている
- ログの結果を教員にフィードバックすることにより、リポジリの理解を深めたい

県大図協への影響



- 停滞気味な雰囲気
- ↓
- 活性化、盛り上がり感(HARP参加館だけ?)
 - 連帯感、各館の結びつきの強化
 - “自分たち”の事業

発表機会の増大



日時	地域	内容	事例発表等
2008年9月	埼玉	SALA幹事会	広島市立大
10月	広島	ワークショップ	日赤広島看護大
11月	長崎	長崎県大図協	広島経済大・広島工業大
2009年2月	沖縄	沖縄県大図協	広島文教女子大
8月	山口	山口県大図協	広島女学院大
10月	埼玉	SALA研修会	広島文化学園大
11月	新潟	新潟県大図協	広島経済大

7. HARPのこれから



HARPに期待すること
HARPへの不安
HARPの課題

HARPに期待すること



- HARPを通じた**連携強化**(8)
- **参加館の拡大**(6)
- ノウハウの共有(3)
- 学内成果の電子公開(2)
- 安定的な運営(1)
- 汎用性の高いモデル構築(1)
- 自学IRの独立支援(1)

公開後のアンケートより(カッコ内は回答数)

HARPへの不安



- **広島大学のサポート**の存続(8)
- 発展的解消後の自立(6)
- 自学の自立との関係(3)
- コンテンツの収集(2)
- 人員の確保(1)
- 参加館間の温度差(1)

公開後のアンケートより(カッコ内は回答数)

HARPの課題



- コンテンツの充実(数も種類も)
- 一時の盛り上がりにならない(継続性)
- 県大図協の中での二分化(12:12:1)
- 新規加盟館の遡及登録は？

ありがとうございました

お問い合わせは・・・si-tsuji@hue.ac.jp まで

<おまけ>
ブログ配信中です

